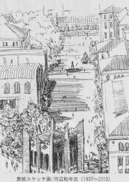
VOL.11
2014

稲門三島



表紙スケッチ画/河辺和年氏（1937〜2013）

早稲田大学校友会三島稲門会誌
発行者：早稲田大学校友会静岡県支部三島稲門会長　森田 眞覧
発行所：早稲田大学校友会三島稲門会「稲門三島」編集委員会
〒411-0035 三島市大宮町2・16・4 青木興業㈱内
TEL. 055-916-3101・FAX. 055-916-3071
e-mail：kazu@aokico.jp
印刷所：NAPO 株式会社

集まり散じて早稲田の杜に

三島稲門会
会長　森田眞覧

創立の日、学頭小野梓先生の歴史的名演説が早稲田の杜に木霊した。「一国の独立は国民の独立に」「国民の独立はその精神の独立に」「国民精神の独立は学問の独立に」在りと。その熱弁に心を動かさぬものはこの杜に存しない。

明治15年10月21日、小野梓以下教師6名、生徒80名で発足した東京専門学校は、明治35年創立20周年を機に早稲田大学と改称された。

その式典、早稲田大学開校式で、創立者大隈重信は持論の「学問の独立」を説いた。注目すべきはかっての政敵伊藤博文がこの式典に列席し「東京専門学校を大隈の私党、立憲改進党拡張の具と為さんとするものと見違えていた者が多いとし、大隈伯爵の度量の大きさを誤認していたものと認める」と語り、大隈もまた欣快の念をしめしたという。

その後の早稲田大学の躍進は目覚ましく、明治40年創立25周年を機に校歌が制定された。

都心から離れ、田畑雑木林に囲まれ、地方出身の学生が多く、「早稲田田んぼの泥鰌」と揶揄されながら、大学の発展、卒業生の活躍でやがて「都の西北」は日本で一番有名な校歌となってゆく。早稲田マンはこの校歌に生きざまを託して、早稲田の杜こそ自由と反骨の砦と己が精神を矜持しつつ、人生を歩む。

創立25周年記念式典は大隈重信像の除幕式に始まり、夕方からの提灯行列は万余の学生と校友が高らかに「都の西北」を歌いながら、二重橋まで行進したと校誌は伝えている。

大正9年2月、早稲田大学は慶応義塾大学と並んで大学令による認可を受け、名実ともに「大学」となった。それまでは帝国大学令に基づいた各帝国大学のみが法令上の大学であった。ここに於いて私学の雄として早稲田大学の躍進がさらに顕著なものとなる。

建学百周年を迎えた昭和57年の記念式典の際、来賓として招かれた慶応義塾大学の石川忠雄塾長は祝辞で次のように述べた。

「大隈老侯に対するさまざまな猜疑の目が創立当時の困難を招いたが、学問の独立と自由、在野の精神を基盤にした卒業生、教職員の同志的結合はその困難を見事に克服した。その過程で早稲田大学がそれぞれの人々の信ずるところに従って、屈することなく溌剌とその使命を達成しようとする独特の校風を形成し、我が国の学界、政界、文芸等あらゆる分野に個性豊かな人材を輩出されたことに敬意を表する」この石川塾長の賛辞に31年後の今日、我が早稲田は如何に応え得ているであろうか。鼎の軽重をまさに問われている昨今である。

鎌田薫総長の下、アジアのリーダーを目指す新生WASEDAはこの春、中野に国際学生寮を完成する。海外留学生、地方出身学生を同部屋で居住させ、競わせるという。昨秋フランスより文学部に入学した遠縁のボナ・クロヴィス君、その美貌で女子学生を悩ませながら早稲田を楽しんでもらいたい。集まり散じて早稲田の杜に！【㈱森田商店代表取締役会長・65商研修】

2013年度の行事

■三島稲門会2013年度の活動■

1月16日　三島稲門会幹事会　（ザ・仲次郎）
2月1日　三島稲門会2013年度総会（みしまプラザホテル）来賓　早稲田大学助教檜皮瑞樹様、総長室校友連絡担当部長　後藤由美子様、沼津稲門会3名　三島稲門会25名（詳細後述）
2月15日　静岡県東部校友会　（三島昭明館）
2月23日　三島三田会　（みしまプラザホテル）
3月2日　早稲田大学代議員会
3月29日　静岡県東部校友会役員会（沼津銀座ライオン）
4月20日　静岡県支部役員会（静岡駅東海軒）
4月27日　沼津稲門会総会（ホテル沼津キャッスル）
5月18日　三島稲門会役員会（ザ・仲次郎）
6月30日　静岡県支部総会（ホテルコンコルド浜松）当会より8名参加

W 静岡県稲門祭2013

静岡県稲門祭 2013。鎌田総長を囲み校友が盛り上がる。（6月30日、ホテルコンコルド浜松）

8月10日　新人歓迎会（ザ・仲次郎）（詳細後述）
9月13日　早慶合同懇親会（みしまプラザホテル）（詳細後述）
9月27日　早稲田大学校友会代議員会
11月22日　三島稲門会忘年会（ゆうが）
11月26日　静岡県東部校友会役員会（富士グリーンホテル）
12月14日　沼津稲門会忘年会　（ホテル沼津キャッスル）

（青木代司一記）

三島稲門会総会13

■三島稲門会　総会2013■

平成25年2月1日、17時30分からみしまプラザホテルにて、静岡県支部三島稲門会総会が行われた。

総会は、小島健昭（昭60法）幹事長司会により森田眞寛（昭40商研修）会長挨拶、来賓として総長室校友連絡担当部長の後藤由美子氏、大学史資料センター助教の檜皮瑞樹氏が紹介された。

議事に入り、会務報告は幹事長が、会計報告は井出雅光（昭47理工）会計幹事が務め、役員改選は森田会長推薦による提案が了承された。

18時から檜皮瑞樹助教による「キャンパスに歴史あり・都の西北早稲田の森？・」と題して稲門にとって大変興味深い講演があった。

2月1日、総会でスピーチをされる河辺和年前会長。/みしまプラザホテル（平成25年6月30日ご逝去）

引き続き懇親会が青木代司一（昭54理工）事務局長の司会、中川和郎（昭31文）顧問の乾杯で行われた。懇親会来賓として沼津稲門会（3名）の参加があった。（総勢35名）

◆参加者・南方衛、中川和郎、足立光弘、河辺和年、小野惇一、菊地信廣、久保田進也、世古口健、益原章生、岩村行正、石井登喜男、榎本昭雄、森田眞寛、木村幹雄、小西政司、菅野俊男、田口義昌、長倉春生、井出雅光、湯原純一、平野正文、青木代司一、土屋研二、小島健昭、新井祐二、原沢大、川口さつき、野口浩毅、永田廣幸（校友のみ卒年順）

（小西政司記）

（「早稲田学報」8月号より転載）

新人歓迎会2013

■新人歓迎会2013■

開催日　平成25年8月10日
場所　ザ・仲次郎
概要
第一部「DVD人生劇場」鑑賞会
第二部　懇親会

早稲田大学本部校友会にお願いして、三島稲門会管内の在学生75名に案内を発送。結果2名の参加を得て、三島稲門会員23名併せて総勢25名による盛大な催しとなりました。お知り合いで新入生情報がありましたら、事務局までご連絡ください。

新人歓迎会で挨拶する在学生。8月10日。/ザ・仲次郎

◆参加者・在学生　小長谷宗弘（M1政経）、森田鉄之介（M2政経）

・卒業生

鹿戸周（57商）、益原章生（61政経）、中田硯也（63商）、岩村行正（64法）、森田眞寛（65商研）、榎本昭雄（65理工）、石井登喜男（65商）、木村幹雄（66商）、田口義昌（67政経）、小西政司（67商）、土屋比都司（68商）、井出雅光（72理工）、湯原純一（72法）、土屋文雄（74文）、飯塚弘（74理工）、平野正文（76教）、青木代司一（79理工）、土屋研二（81政経）、小島健昭（85法）、浦上健（87商）、岸田伸幸（88政経）、新井祐二（89商）、野口浩毅（03理工研）

（青木代司一記）

早慶合同懇親会13

■早慶合同懇親会2013■

開催日　平成25年9月13日
場所　みしまプラザホテル
概要

隔年開催により本年は稲門会が幹事を担当。今回は女性会員2名を含め、6名の新規参加者を迎え、新たな試みとして、土屋研二幹事によるギター弾き語りのコーナーを設けました。ビートルズを中心にオールデイズナンバーや吉田拓郎のフォークソングを早慶で合唱して大いに盛り上がりました。

◆参加者　22名（三島稲門会）

久保田進也（61商）、益原章生（61政経）、岩村行正（64法）、森田眞寛（65商研）、石井登喜男（65商）、田口義昌（67政経）、小西政司（67商）、土屋比都司（68商）、青木政代（69文）、井出雅光（72理工）、飯塚弘（74理工）、青木代司一（79理工）、土屋研二（81政経）、小島健昭（85法）、岡田尚之（84商）、平井剛（89文）、新井祐二（89商）、土屋賢太郎（98法）、原沢大（91法）、野口浩毅（03理工研）、永田廣幸（06教研）、上門聡美（09人科）、慶應OB（三島三田会）参加者16名（氏名省略）

（青木代司一記）

早稲田大学校友会 静岡県支部
三島稲門会
三島三田会
早慶合同懇親会で熱唱する土屋研二幹事。9月13日。/みしまプラザホテル

代議員会報告

■秋季代議員会のご報告■

平成13年9月27日（金）、大隈講堂にて開催された早稲田大学校友会秋季代議員会に、三島稲門会からは、井出会計幹事と私の2名が出席しました。

議題の多くは役職、人事等についての関係であり、毎回変動があるため報告が行われます。

そして議事の中心は2012年度決算ですが、会費収入は約5億5千万円と多額になっており、組織の大きさを感じます。その他に受取利息約6千7百万円があり、これは27億円ある預金と預託金からの収益と思われます。電卓を打ってみると、約2.5%ほどの利回りですから、なかなかのものでしょう。支出の主なものは、まず奨学金関係が約2億3千万円、母校支援費が約4千万円で、これらは稲門会の存在意義ですから、会員の力で大きな金額の支援ができているのは喜ばしいことです。

じつは議事よりも、最後の質疑応答が代議員会らしいと思うのですが、今回もさまざまな発言がありました。

○各稲門会で総長をお招きするが、総長は大変に多忙であり、健康を損ねないか心配だ。遠慮したらどうか。

→健康に配慮しつつ活動しているので心配はご無用。

○会議費等が計上されているが、手弁当が当然であり予算に計上はすべきではない。

→そういうご意見は常にあるが、今までどおりにさせていただく。

○ホームカミングデーにもっと高齢の世代を呼んでほしい。

→予算の関係もあり難しいが、じつはパンフレットには70歳（ちょっと記憶がはっきりしません。65歳だったかも）以上の方はいつでもお越しくださいと記載している。

などなど、発言もいろいろですが、執行部がそれをさばいていくのが見もの[illegible]あります。

会議終了後は大隈ガーデンハウスで1時間ほどの懇親会が行われ、終了となりました。（小島　健昭記・三島稲門会幹事長・昭和60年　法学部卒　税理士）

お悔やみ

■河辺和年前会長を偲んで■

平成25年の静岡県稲門祭が浜松で行われた6月30日（日曜）その日、前会長の河辺和年先輩が急逝されました。

浜松の稲門祭では校友野村万作師の狂言のお話、実演を最前列で鑑賞させていただき、大満足で意気揚々の気分で楽しく三島に戻った、まさか、その翌朝、先輩の訃報に接するとも知らずにです。

春先から治療通院の頻度が増していたことは伺っていたが、あまりの突然の悲報、ご他界で愕然とするばかりでした。

河辺先輩は八木傳会長時代、副会長を6年お努めいただき、4年間の会長時代は県支部幹事長として、支部活動にも貢献されて来られ、ご自慢は早稲田時代、創設者の一人として参画されたモダンジャズ研究会の後輩にあのタモリ（森田一義氏）がいたということで、しばしば楽しそうにその噂を語られました。

この会報「稲門三島」発刊も河辺先輩のアイデアで、自ら毎号の表紙絵、早稲田界隈のスケッチ画を担当されていて、本誌は一稲門会の事業としては他に例のないものと聞いている、三島稲門会の誇りでもあります。

ご葬儀の折、7月3日の通夜席でご家族のご希望もあり、不肖私がお別れの辞を述べさせていただき、その後参列の校友十数名全員がご霊前に進み、哀悼の心をこめて「都の西北」を合唱し、先輩のご冥福を祈り永訣いたしました。合掌。

（森田眞覧記・三島稲門会会長）

ホームカミングデー

■2014年度ホームカミングデー■

ご案内対象卒業年次（予定）

①（卒業50周年目）1965年（昭和40）
②（卒業45周年目）1970年（昭和45）
③（卒業35周年目）1980年（昭和55）
④（卒業25周年目）1990年（平成2）
⑤（卒業15周年目）2000年（平成12）
⑥①～⑤と同期入学で卒業年の異なる方
⑦①～⑤の年および今年推薦校友になられた方

＊開催は2014年10月19日（日）の予定で、詳細は8月上旬に大学校友のウエブサイトに掲載の予定。

（早稲田大学校友会より）

対象卒業年次の校友は、母校からの連絡の有無にかかわらずお誘い合わせのうえ積極的に「母校再訪」ご参加ください。

三島稲門会役員

●顧問＝中川和郎（56文）・足立光弘（58商）
●会長＝森田眞覧（65商研）●副会長＝益原章生（61政経）・田口義昌（67政経）・小西政司（67商）
●幹事長＝小島健昭（85法）●会計幹事＝井出雅光（72理工）
●幹事＝榎本昭雄（65理工）・木村幹雄（66商）・土屋比都司（68商）・長倉香生（69教育）・杉澤正人（80文）・永田廣幸（06教育研）・土屋研二（82政経）
●事務局長＝青木代司一（79理工）・事務局次長＝中山惇（10文）

事務局便り

■年会費納入のお願い■

本会の2014年度年会費を銀行振り込みでご送金下さるようお願い申し上げます。

・年会費　3，000円
・振込先　静岡銀行　中島支店
・口　座　普通0450431
・宛　先　早稲田大学三島校友会
　　　　　会計　井出雅光

編集後記

前号（10号）でお知らせしておりました、当会報の編集長交代が、後継の引き継ぎが出来ないまま推移したために、再度努めさせていただきました。

小生は、会報の編集作業が集中する11月～12月が特に別件の用務と重なるため、後任を探しておりましたが不調に終わった次第であります。いずれにしましても、どなたが担当されても編集作業が簡素化されるよう、活動報告のスペースを拡大し、幹事長、事務局長にも加わっていただくことになりました。

また本年は、強力な助っ人（編集のプロ）が入会されるとのお話が忘年会の二次会で現実化し、大いに期待しております。

さて、森田会長が本紙に「お悔やみ」を寄せられましたが、当会報の生みの親であります前会長河辺和年先輩が、逝去されました。当会報の表紙は河辺先輩のスケッチ画がシンボルですので、奥さまのご了解をいただき、過去のスケッチ画を創刊号から再び使わせていただくことになりました。会報を手に取る度に河辺先輩の在りし日々を思い起こしていただければ幸いです。合掌。（K）

■『稲門三島』編集委員会■委員長＝小西政司（67商）・委員＝青木代司一（[illegible]理工）・飯島　映（01理工研）

投稿のページ

話勢多

WASEDA

古今伝授の場所

土屋比都司

十五年も続いた応仁文明の乱最中の文明3年（一四七一）東常縁（とうの つねより）は幕府の命で堀越御所警護の任にあり東国三島に対陣していたと言われている。連歌師宗祇（そうぎ）はその常縁から三島で古今伝授をうけたことが記録に残されている。ところが三島の何処で古今伝授をうけたのかは記録が無い。その場所について明らかにしたい。

（1）　三島は伊豆の玄関口であり、堀越御所を護る＝敵（古河公方）からの侵入路を押えるということ。敵の侵入路となる箱根方面からの街道は、当時は平安鎌倉古道と呼ばれる元山中経由が主要道であったが、山中新田経由の新道も徐々に開けてきた。河原ヶ谷城跡は鎌倉古道を城内に取り込んでいて、新道もその南側近くを通っていて両道を押えられる位置にあること。

（2）　『三島千句』の四カ所に「古寺～」があり「〇〇寺」とあるのも四カ所、そして「庵」がでてくるのが七カ所あり、この数は宗祇独吟ではないが「川越千句」の三倍で「出陣千句」の四倍ある。願成寺は天文元年（一五三二）の開基で、一番古い墓標は至徳四年（一三八七）というから古今伝授の頃には小庵があったことは間違いないから、『三島千句』の中にも自然と寺に関する文言が多くなったものだろう。

また、『三島千句』とは、古今伝授の際、常縁の子息竹一丸が風邪を患い宗祇は発句をもって三嶋明神（三嶋大社）に立願したところ平癒したため、三日間で千句を独吟・奉納したとされるもので、三島における古今伝授のかけがえのない副産物である。（三嶋大社宝物館蔵）

（3）　明応5年（一四九六）9月28日に三条西実隆邸にて宗祇・宗長ら五人と富士山談議に及んだ時、宗祇が「十一ヶ国より富士山を見て7年いた関東では見あきることはない。（中略）伊豆三島より見る富士山は小山共が連なって優美ではない」と言っている点である。

『宗祇終焉記』によれば、箱根湯本での死後、宗長らは宗祇の遺骸を担いで定輪寺（裾野市桃園）まで運んだため墓所も同寺にある。宗祇は伝承にもあるように、ここから常縁の陣所まで凡そ7㎞の道程を、おそらく一日置きに馬に揺られながら通ったものと思われる。

定輪寺辺りからは愛鷹山が邪魔して富士山は見られない。三島駅近くになって見ることができるが、常縁陣所と思しき願成寺裏のある台地からは、十数m高い本郭方向に富士山があるためここからも見ることができない。

（4）　願成寺から宗祇翁三百五〇年遠忌の掛軸が見つかったことである。宗祇の没年は文亀2年（一五〇二）であるから、三五〇年遠忌は嘉永4年（一八五一）である。二〇〇年と二五〇年遠忌は箱根湯本早雲寺、三〇〇年と四〇〇年遠忌以降は裾野の定輪寺にて行われている。三五〇年遠忌については、願成寺から見つかったこの掛け軸のほかにはない。

以上の4点から、古今伝授の場所は、鎌倉街道沿いの願成寺の小庵のあった河原ヶ谷城域の陣所であったとする所以である。

河原ヶ谷城は願成寺のある台地と陸軍墓地のある台地、それに自動車学校東側の三つの台地からなり、東西三〇〇ｍ南北四五〇ｍほどで、中世まではこの台地の東西と南側一帯は大場川を氾濫源とする泥湿地帯であった。城ノ腰の小名から城（ジョウ）の時代＝室町時代と一帯を城山の小字から城（シロ）の時代＝戦国時代北条氏政陣所の二期にわたる使用が考えられる。

（三島稲門会幹事・伊豆史談会常任理事）

（編集士注）「古今伝授の場所」について興味のある方は土屋比都司著『三島の古今伝授について -それは何処で挙行されたか-』「伊豆史談」第137号（二〇〇八）をご覧ください。（三島市立図書館蔵）

「古今伝授の寺」石碑（三島宗祇法師の会）建立除幕式。
平成25年3月27日、願成寺（三島市川原ヶ谷）にて。

私の履歴書、の代わりに

平井　剛

私は現在、三島北高校で教諭をしております。教科は英語、校務分掌は進路課の課長、部活動の顧問は野球部の部長を担当しております。現任校は9年目となり、その間、男女共学化、特進クラスの設置、オーストラリア、パリ修学旅行の実施、野球部の復活などの激動とも言える変革期に仕事をさせてもらいました。進路課長は本年度から担当することとなり、放課後や土曜日の講習の実施、進路講演会、大学入試対策、進路指導の提供などの業務に追われる中、生徒の進路実現の支援をどうするか考えています。大学進学への出口指導だけではなく、「キャリア教育」を見据えた視点から幅広い進路指導の実践を模索し格闘しております。

安倍磯雄先生胸像と飛田穂洲先生胸像前で（早稲田大学中央図書館前）平成24年ホームカミングデーにて。

そもそも、私が高校教員を目指すきっかけは韮山高校で先生方に影響を受けたことから始まったと感じていますが、さらに早稲田大学で様々な素晴らしい人々と出会い、人間の対する興味、「教育」の力に魅力を感じたからでした。

第一文学部の英文学専修では、学部長を歴任された御殿場出身の林昭夫先生に懇意にしていただき御指導を受けました。学生当時は「ニューアカ」が流行し、御多分に漏れず現代思想や映画に惹かれ、一方でコンピュータやポップスのサークルで楽しんでいました。卒業後、現在は教育学研究科に発展した専攻科で学びながら、早稲田高校の教壇に立たせていただき、教員生活を開始し現在に至っております。

グローバル時代の現代において様々な問題がありますが、それらを解決していくのは人間であり、その人間を形成していくのは教育の力であると信じており、だから、教員としてできる限りのことはしていきたいと心に念じてこれからも教育に従事していきたいと思っています。

（静岡県立三島北高等学校教諭（進路指導主事）　昭和63年第一文学部、平成元年英語英文学専攻科卒）

会報「稲門三島」原稿募集中

会員投稿ページに原稿をお寄せ下さい。ご希望の会員は三島稲門会役員にお申し出ください。（編集部より）